

令和元年 6 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

杉平遺跡の発掘調査

青梅市梅郷一丁目に位置する杉平遺跡^{すぎだいらいせき}は、竹林寺のある台地(新町面と呼ばれる段丘面)とその東側段下 10m 程に位置する台地^{たけのや}(竹ノ屋面)の二か所に該当します。

このたび、段下の一部に運動広場を新設することとなり、第 7 次発掘調査が平成 30(2018)年 10 月 9 日から 11 月 30 日までの間、170 m²の調査面積で行われました。

昭和 50 年頃の表面採集では、南側を流れる町屋川^{まちやがわ}側の畑で、縄文時代後期の土器片(堀之内様式)が表面採集されており、上の段の時代と比べると 500 年ほど新しい時代に位置付けされるものでした。

今回の調査でも、それを裏付けた形で、縄文時代後期(今から約 4 千年～3 千年前)の土器片を主体に、石器では、穴掘りの道具として使われたとされる石斧^{せきふ}、黒曜石^{こくようせき}やチャート^{やじり}で作られた鑛^{せんりよくがん}、閃緑岩^{せんりよくがん}などで作られた磨石^{すりいし}と石皿^{せきぼう}の破片。そして、特殊な物では、閃緑岩で作られた長さ 17 c m 程の石棒^{くぼみし}の一部や、凹石^{おもり}、錘(漁撈具)など、色々な種類の石器が見つかりました。

また、今回の発掘調査では、このような道具類の遺物のほか、礫^{れき}を伴う多くの遺構が確認されました。

縄文時代の遺構としては、扁平^{へんぺい}の自然礫^{れき}を人為的に敷き詰めた配石遺構^{はいせきいこう}や、長さ 38 c m 程の砂岩で出来た細長い石が立てられたままの状態^{りっせきいこう}で出土した立石遺構、その他、一般的には、石を使った昔のバーベキュー跡といわれている集石遺構^{しゅうせきいこう}ですが、ここでは被熱痕^{ひねっこん}やタール^{けいせき}などの形跡^{けいせき}が無い状態で出土するなど、土坑^{どこう}(お墓の穴など) 1 基、配石遺構 4 基、集石遺構 2 基、焼土跡 3 か所などが確認されました。

また、時代が新しくなり、平安時代の遺物としては土師器^{はじき}や須恵器^{すえき}の破片、刀子^{とうす}(小刀)と思われる長さ 13.3 c m の鉄製品、重さ 200 g ほどの鉄滓^{てつさい}(金屎)^{かなくそ} 2 点なども出土しました。

平安時代の遺構としては、地表下 1 m ほどのところで土坑 3 基が発見され、その中の一つは、上部に石が敷かれ、その石の直下に刀子と思われる鉄製品が石の重みで曲がった状態で出土しました。

今回の発掘調査では、明確な住居跡は発見されず、人為的に敷かれた配石遺構^{じんいてき}などは何らかの目的をもって作られたものと推測は出来ませんが、確たるものとすることはでき

ませんでした。

出土した土器類は約 4300 点にも及びますが、復元によって一個体として原形を保つ土器は出土しませんでした。

また、石器類は約 160 点出土し、その中に黒曜石で作られた^{やじり}鏃が数点含まれていました。この黒曜石は信州の和田峠産や霧ヶ峰産が多いことから、縄文時代後期前半の時代においても、直線で青梅から 100 km も離れた信州と物での交流があった事を物語っています。

今までの杉平遺跡では、^{ほとん}殆どの調査が山側から延びる台地(新町面)で行われており、古くは昭和 11 年の故塩野半十郎氏の調査の記録が残されています。

昭和 30 年代から 40 年代にかけ、山芋やゴボウの栽培が盛んだった頃、畑を深く掘り下げる収穫時期には、^{れきるい}礫類と共に掘り出された土器片や石器類が時代を判断する重要な史料となっていました。そして、平成 6 (1994) 年 4 月には、宅地開発に伴う発掘調査が大規模に行われ、縄文時代中期中頃の住居跡が 2 軒、同じく中期後半の住居跡が 6 軒見つかりました。

このことから、新町面と呼ばれる上の段丘面では、縄文時代中期(今から約 5 千年～ 4 千年前)の人々の生活の場であった事が裏付けられました。

一方、今回の遺跡発掘調査は、遺跡分布範囲の約 4 分の 1 ですが、縄文時代後期前半の人々は、下の段に生活の場を求めた事が解りました。

まだ住居跡は見つかっていませんが、南側では縄文時代後期前半に位置する土器が^{ひんぱん}頻繁に表面採集された事や、耕作中に掘り出された^{へんべい}扁平な石を見ると、明らかに、当時の人々が探し求めて持ち寄ったとみられる石が多く、住居跡に使用されていた可能性を思わせるものが掘り出されています。

この調査では、今まで知られていなかった段下に位置する杉平遺跡の新しい一面を一部解明する事ができました。これからも杉平遺跡の新しい発見があることに期待します。

(文責 鈴木 晴也)

